

小 学 校

平成 2 3 年度

# 教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	3
V	研究内容	3
VI	研究の成果	24
VII	今後の課題	24

## 研究主題

# 多様な感じ方や考え方に触れ、自分の考えを深める道德の時間 ～中心発問の工夫を通して～

### I 研究主題設定の理由

現代の社会は、科学技術の進歩・発展が人間の生活に多大の恩恵をもたらす一方で、それを活用する人間の側の問題から、様々な影響も出てきている。特に、今日の変動の激しい社会においては、社会全体のモラル低下や家庭・地域社会の教育機能の低下など、児童の道德性の発達を阻害している現象も多く指摘される。こうした社会背景の中、豊かな心を育み、人間としての生き方の自覚を促し、道德性を育成することをねらいとする道德教育の担う役割は大きい。

小学校における道德教育は、人間としてよりよく生きるための基礎・基本となる道德性を育成するところに意義がある。小学校では、人間としてよりよく生きるために必要な道德的価値や行動の仕方を様々な体験や学習を通して学び、一人一人の基礎的な道德性を確立していく必要がある。そして、道德の時間では、道德的価値の自覚を一層促し、そのことを基盤としながら、児童が自己の生き方に結び付けて考えていくことが大切である。

道德の時間において、道德的価値の自覚を深めるためには、「道德的価値を理解すること」「自分とのかかわりで道德的価値をとらえられること」「道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること」を押さえて指導することが必要であると、学習指導要領解説に示されている。そのためには、多様な指導方法が考えられるが、特に資料を基にその登場人物の気持ちや行為などについて、学級全体で話し合う活動を充実させることが大切である。そして、その中で、児童一人一人が多様な感じ方や考え方に触れ、それらと自分の考えとを比較することを通して、自らの道德的価値を見直し、深めていくことが求められる。

多様な感じ方や考え方を引き出す話し合いにするためには、教師による発問が重要な鍵となる。児童の意識の流れを予測し、それに沿った発問や、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問などを心掛けることで、話し合いを深めていくことができる。特に、授業のねらいに強く関わる中心的な発問を工夫することは、道德的価値の自覚を深めるために有効であると考えられる。中心的な発問で、多様な感じ方や考え方に触れた後、さらに、自他との関わりの中でそれぞれに比較したり対比したりすることで、自分の考えを深めることができ、その結果、ねらいとする道德的価値により迫ることができると考えた。

そこで、本研究では、中心的な発問で児童が多様な感じ方や考え方に触れることができるようにし、さらに、自分の考えを深めることができるような補助的な発問をするという工夫を通して、道德的価値の自覚をより深めたいと考えた。

これらのことから、私たちは研究主題を「多様な感じ方や考え方に触れ、自分の考えを深める道德の時間 ～中心発問の工夫を通して～」とし、研究を行った。

## II 研究の視点

### 1 多様な感じ方や考え方に触れる

道徳的価値の自覚を深める上で、特に私たちは道徳的価値の理解に焦点を合わせて研究を進めることにした。児童が道徳的価値を理解してこそ、自分との関わりで価値を捉えたり、自分なりに発展させたりできると考えたからである。

そこで、道徳的価値の理解を、本部会では次の三つのこととして捉えた。

【価値理解】ねらいとする道徳的価値が大切であること。

【人間理解】大切ではあるが道徳的価値に根ざした行為は容易ではないこと。

【他者理解】道徳的価値に関わる感じ方・考え方は人によって様々であること。

これらの道徳的価値の理解を深めるためには、道徳の時間において、児童が資料を通して多様な感じ方や考え方に触れることが大切である。そのためには、教師が発問を吟味する必要があり、さらに、出された考えを深めることが重要であると考える。

道徳の時間での発問は、授業のねらいに強く関わる場面での発問を中心的な発問（以下「中心発問」という。）とし、それを生かすために前後に発問をおく場合が多い。中心発問において話合いを深めることが、より道徳的価値の理解を深めることにつながると考える。そこで、本部会では、価値理解、人間理解、他者理解を含んだ多様な考えを引き出すことができるような場面を中心発問に設定し、ねらいとする価値に迫ることができるようにした。

### 2 自分の考えを深める

中心発問において、更に道徳的価値の理解を深めるためには、児童が多様な感じ方や考え方に触れることにとどまらず、自分の考えを新たにもったり、強めたり、広げたりして、深めることが大切である。そのためには、出された考えを基に、共通の視点で話し合うことが必要である。そうすることで、価値理解、人間理解、他者理解がより深まっていくと考える。

そこで、本部会では、中心発問の後、更に道徳的価値の理解を深めるような補助的な発問を投げかけて話し合わせることにした。この補助的な発問を「深める補助発問」とし、中心発問における話合いの中に位置付けた。このような授業展開によって、児童が目的に応じた話合いを行うことができ、自分の考えを深めるとともに、道徳的価値の理解も深めることができる。その結果、自分との関わりで価値を捉えたり、自分なりに発展させたりできるようになり、道徳的価値の自覚を深めることにつながっていくと考えた。

## III 研究仮説

中心発問において、多様な感じ方や考え方に触れさせ、更にそれを深める補助発問を指導過程に位置付けることにより、児童一人一人の道徳的価値についての考えをより深めることができるであろう。

#### IV 研究方法

##### 1 基礎研究

道徳教育の今日の課題やこれからの在るべき姿について、学習指導要領や日頃の実践を基に話し合った。また、道徳の授業における話合いの重要性について着目し検討を重ね、中心発問、補助発問の役割や道徳的価値の捉え方について共通理解を図った。

##### 2 調査研究

〔調査目的〕児童の実態を踏まえ研究の方向性を探るために、以下のように調査研究を行った。

〔調査対象学校・学年〕 9校

(新宿区 豊島区 練馬区 足立区 八王子市 調布市 国分寺市 国立市 武蔵村山市)

〔調査対象児童〕

第1学年	31名	第2学年	39名	第3学年	29名
第4学年	59名	第5学年	0名	第6学年	133名
合計 291名					

〔調査時期〕 平成23年5～6月

〔調査方法〕 質問紙法（選択式）

##### 3 授業研究

基礎研究、調査研究の結果を基に、授業研究では中心発問、特にそれを深める補助発問の研究に重点を置いた。その点について吟味、精選をした授業を実践し、その成果と課題を分析した。

#### V 研究内容

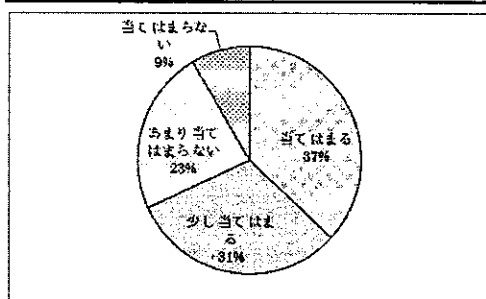
##### 1 基礎研究の成果

道徳の授業における発問の重要性を見出し、中心発問や補助発問の有効性を確認した。その上で、中心発問及び補助発問の定義を明確にした。また、道徳的価値の理解について、「価値理解」「人間理解」「他者理解」の三つの理解であると定義した。

##### 2 意識調査・調査分析

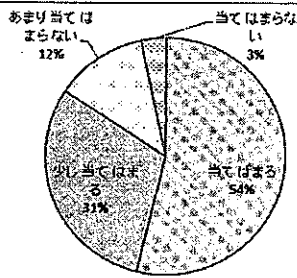
道徳の時間における児童の実態を、五つの質問事項で調査した。

(1) 道徳の時間に、自分の思いや考えを伝えていますか。



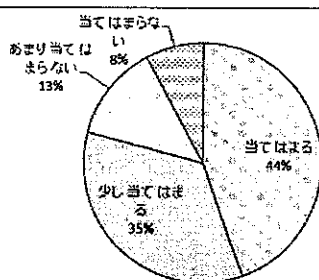
話すことについては、およそ7割の児童が道徳の時間に思いや考えを伝えることができると回答している。しかし、およそ3割の児童は自分の思いや考えを伝えることができないと回答している。児童が思いを伝えたいくなるような発問の在り方・内容について吟味する必要がある。

(2) 道徳の時間に、友達の話聞くことは好きですか。



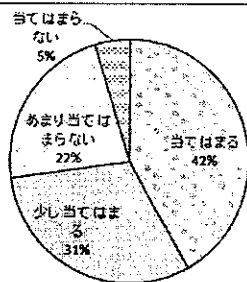
聞くことについては、およそ8割の児童が、友達の考えを聞くことが好きと回答している。友達の意見に興味・関心が強いからこそ、発問の工夫によって様々な意見を出させ、多様な考えに触れさせていくことが大切である。

(3) 道徳の時間に、友達の考えを聞いて、自分の考えが変わったことがありますか。



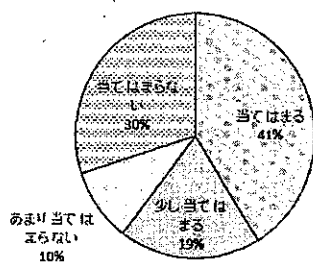
およそ8割の児童が、友達の考えを聞いて、自分の考えが変わったことがあると回答している。このことは道徳の時間の中での友達の考えを聞くことが、児童の考えに大きな影響力をもっていることを示している。

(4) 道徳の時間に友達の考えを聞いて、自分の考えに自信をもったりもう一度考えたりすることがありますか。



7割以上の児童が、友達の考えを聞いて、自分の考えに自信をもったり、もう一度考えたりすることがあると回答している。したがって、話合いの質を高める手だてを考え、児童が道徳的価値の自覚を深めることにつなげていく必要がある。

(5) 道徳の時間に、今の自分よりもっとよくなりたいと思うことがありますか。



およそ6割の児童が、道徳の時間に今の自分よりよくなりたいと思っていると回答している。やはり話合いの質を高め、今の自分をよりよくなっていきたいという思いを高めさせていくことが重要である。

以上の分析から、児童がより、思いや考えを伝えられるような手だてを講じながら、話合いの質を高めることが、道徳的価値の自覚を深めることにつながると考えた。

### 3 中心発問の在り方

#### (1) 中心発問の工夫

児童が道徳的価値の自覚を深めるためには、価値理解、人間理解、他者理解を含んだ多様な考えを引き出すことができるような中心発問の設定が重要である。理想的なことだけを発表させることにとどまらず、人間の心の弱さにも焦点を合わせることで、自分の生き方について考えさせる授業にすることができると考える。以下、第2学年での実践例を挙げて説明する。

①主題名「あたたかい心で」(第2学年 2-1(2)思いやり・親切)

②資料名「ぐみの木と小鳥」(どうとく きみがいちばんひかるとき 2年 光村図書)

#### ③資料の概要

小鳥は、ぐみの木から、友達のりすが来ないので心配していることを聞き、ぐみの実を持ってりすの様子を見に行く。すると、りすは病気だった。次の日は嵐だったが、りすのために、小鳥はぐみの実をくわえてりすのところに行く。

④ねらい 友達や周りの人が困っているときに、親切にしようとする心情を育てる。

この資料でのねらいである思いやり・親切の価値に迫るための中心発問の例として、次のようなものが考えられる。

- ア 小鳥が飛び立っていったのは、どのような気持ちからでしょう。  
イ 嵐の中を、口いっぱいぐみの実をくわえ、小鳥はどんな気持ちで飛んでいったのでしょうか。  
ウ 嵐を見て、小鳥はどんな気持ちだったでしょう。  
エ りすに「ありがとう。」と言われたとき、小鳥はどんな気持ちだったでしょう。

この中で、最も道徳的価値の理解(価値理解、人間理解、他者理解)に迫ることができると考えられる発問は、ウ「嵐を見て、小鳥はどんなことを考えたのでしょうか。」であると考えた。

ア「小鳥が飛び立っていったのは、どのような気持ちからでしょう。」、イ「嵐の中を、口いっぱいぐみの実をくわえ、小鳥はどんな気持ちで飛んでいったのでしょうか。」という中心発問を投げかけると、図1-1(1)のように、児童は「何とかりすさんをたすけたい。」「きけんだけど、りすさんをほうっておけない。」などと発言するだろう。この発言は、価値理解や他者理解を深めるには効果的であるが、小鳥の心の弱さに関する考えが出てこず、人間理解を深めるにはまだ十分とは言えない。エ「りすに『ありがとう。』と言われたとき、小鳥はどんな気持ちだったでしょう。」についても同様である。

そこで、図1-1(2)に表したように、ウ「嵐を見て、小鳥はどんなことを考えていたでしょう。」という中心発問を投げかける。すると、「何とかりすさんをたすけたい。」「きけんだけど、りすさんをほうっておけない。」という小鳥のりすに対する思いやりの気持ちはもちろん、「あらしだから、一日くらいがまんしてくれないかな。」「ぼくまでかぜをひく。やめようかな。」という小鳥の気持ちの弱さまで引き出すことができる。そうすることにより、児童は価値理解や他者理解だけではなく、人間理解も深めていくことができる。

しかし、道徳的価値の理解を更に深めるためには、意見を出させて終わりにするのではなく、出された友達の意見のよさに目を向けたり、価値について熟考させたりすることが必要であると見え、「深めるための補助発問」を設定した。

図1- (1) 人間理解に触れさせにくい中心発問のイメージ

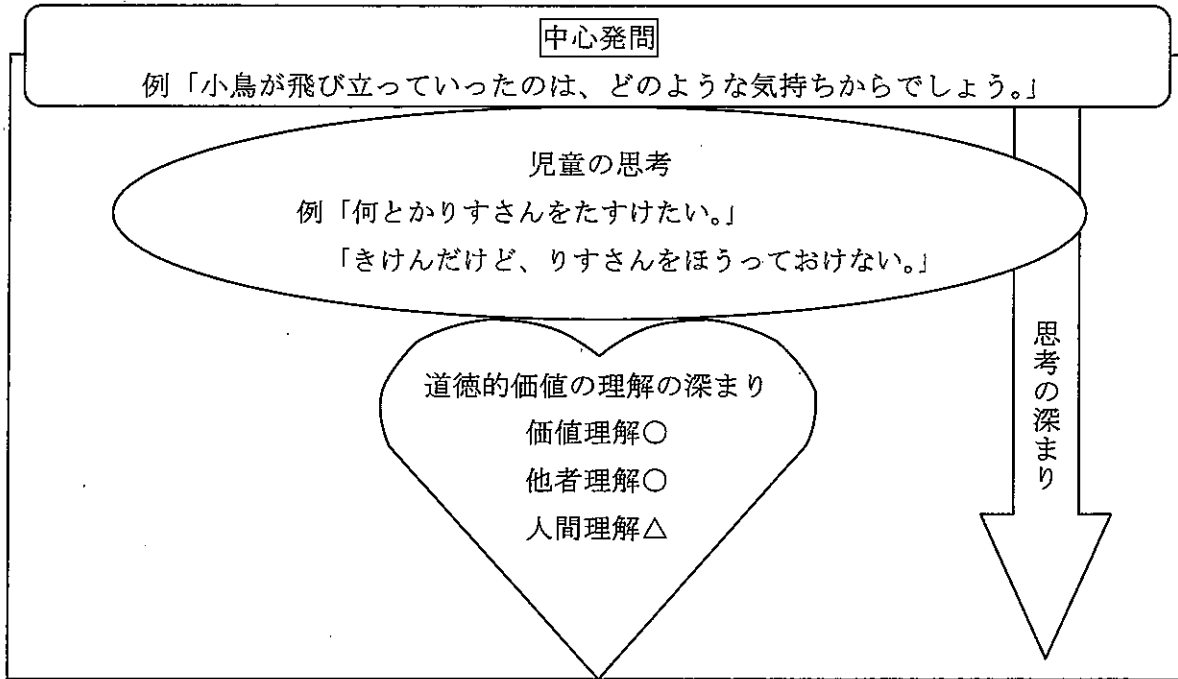
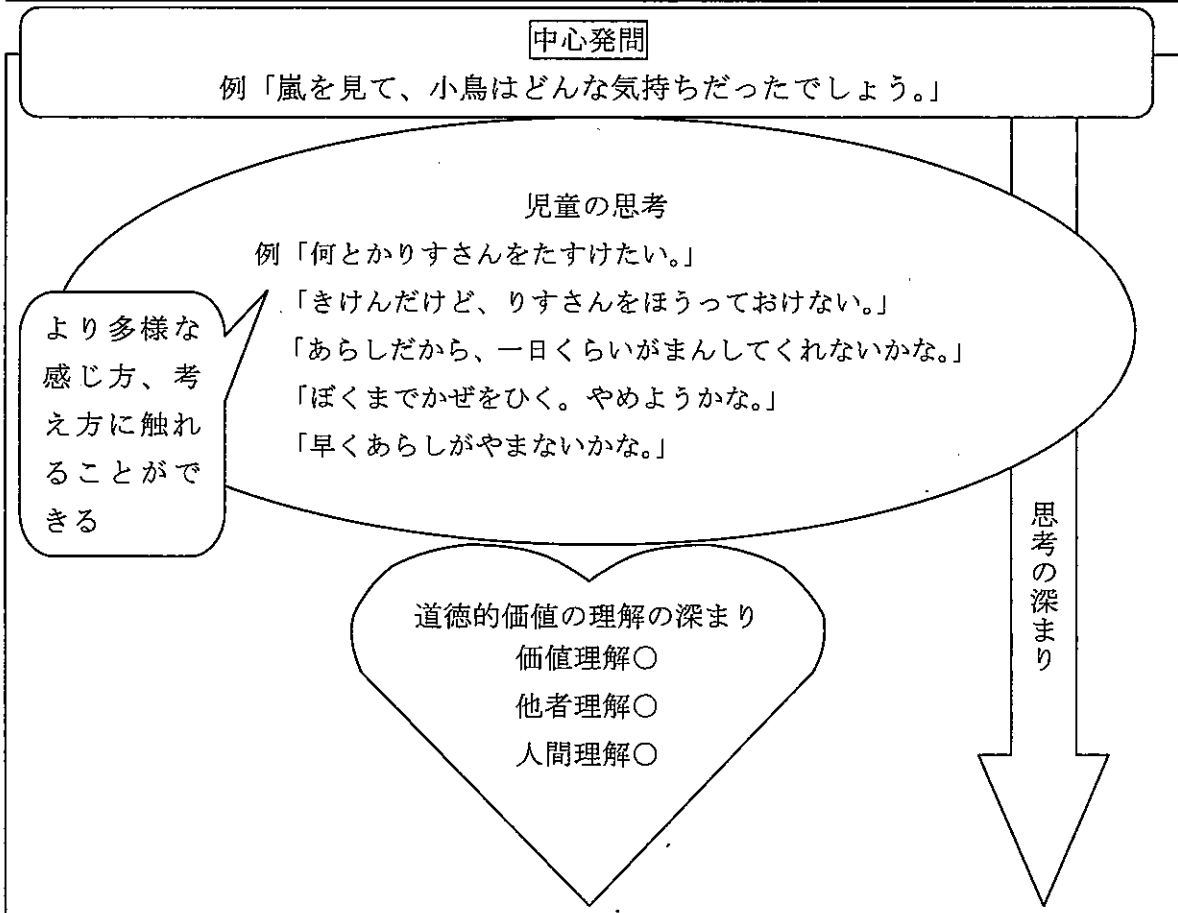


図1- (2) 価値理解、他者理解、人間理解を含んだ中心発問のイメージ

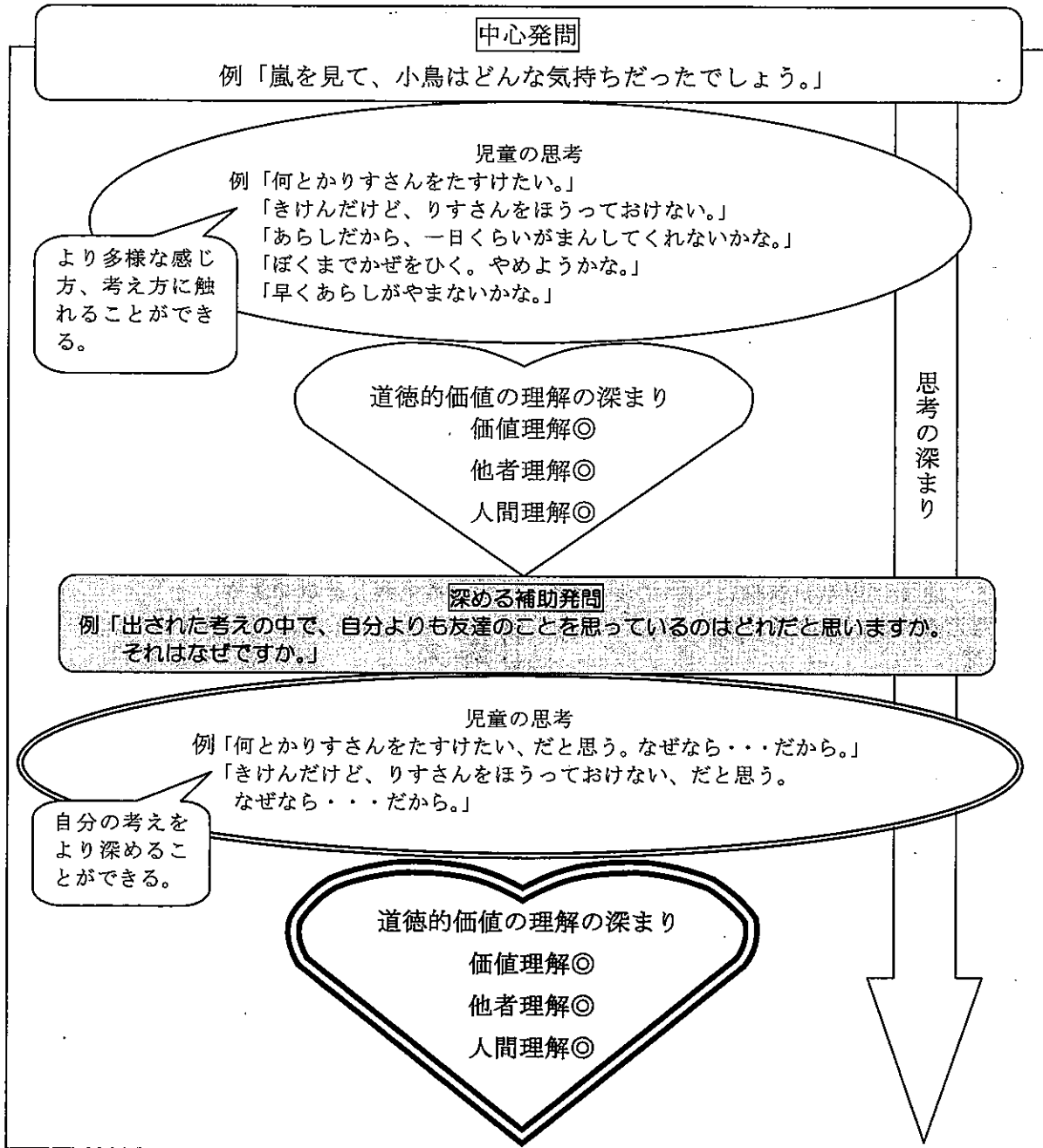




(2) 深める補助発問の工夫

図2に表したように、児童から引き出した多様な感じ方、考え方を発言させるだけでなく、その発言を板書し、それらを活用して「出された考えの中で、自分よりも友達のことを思っているのはどれだと思いますか。」などの深める補助発問を投げかけて話し合わせることで、図1- (1) や図1- (2) 以上に児童が自分の考えを深め、道徳的価値の理解をより深めることができる考えた。

図2 本部会が提案する中心発問のイメージ



このような中心発問を投げかけることにより、児童がより多様な感じ方、考え方に触れ、自分の考えを深めることができ、その結果、児童の道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することができる考える。

(3) 深める補助発問の種類と具体例について  
 深める補助発問を以下の五つに類型化した。

深める補助発問の種類と具体例

A 価値に目を向けて選ぶ補助発問

「出された考えの中で、のはどれだと思いますか。それはなぜですか。」

効果

- ・ 多様な考えを整理し、価値について焦点化することができる。

使い方

- ・ に入る言葉の例  
 「一番友達のことを思っている」  
 「友達ともっと仲良くなれる」  
 「自分よりも友達のことを思っている」

B 友達の考えに目を向ける補助発問

「出された考えの中で、なるほどと思うのはどれですか。それはなぜですか。」

効果

- ・ 自分と異なる友達の考えについてより深く考えることができる。

使い方

- ・ なるほどと思うの部分には、自分では気付かなかったことや、自分の考えが深まったり広がったりしたことの視点で考えさせる。

C 一つを取り上げて考える補助発問

「この考え」についてどう思いますか。」

効果

- ・ 一つの考えを教師が取り上げて考えさせることで、児童は価値についてより深く考えることができる。

使い方

- ・ この考えの部分には、より深く価値に迫っていくものを選ぶ。
- ・ 少数の考えを取り上げて考えることもできる。

D 二つを比べる補助発問

「二つ（複数）の考えの中で、どちらが強いと思いますか。それはなぜですか。」

効果

- ・ 自分と異なる考え触れ、自分の考えを再考することができる。

使い方

- ・ 考えが分かれたときに、それぞれの考えについて深く考えさせることができる。また、ねらいとする価値を焦点化することができる。

E 共通している気持ちを探す補助発問

「出された考えに、共通しているのはどんな気持ちだと思いますか。」

効果

- ・ 価値について焦点化することができる。

使い方

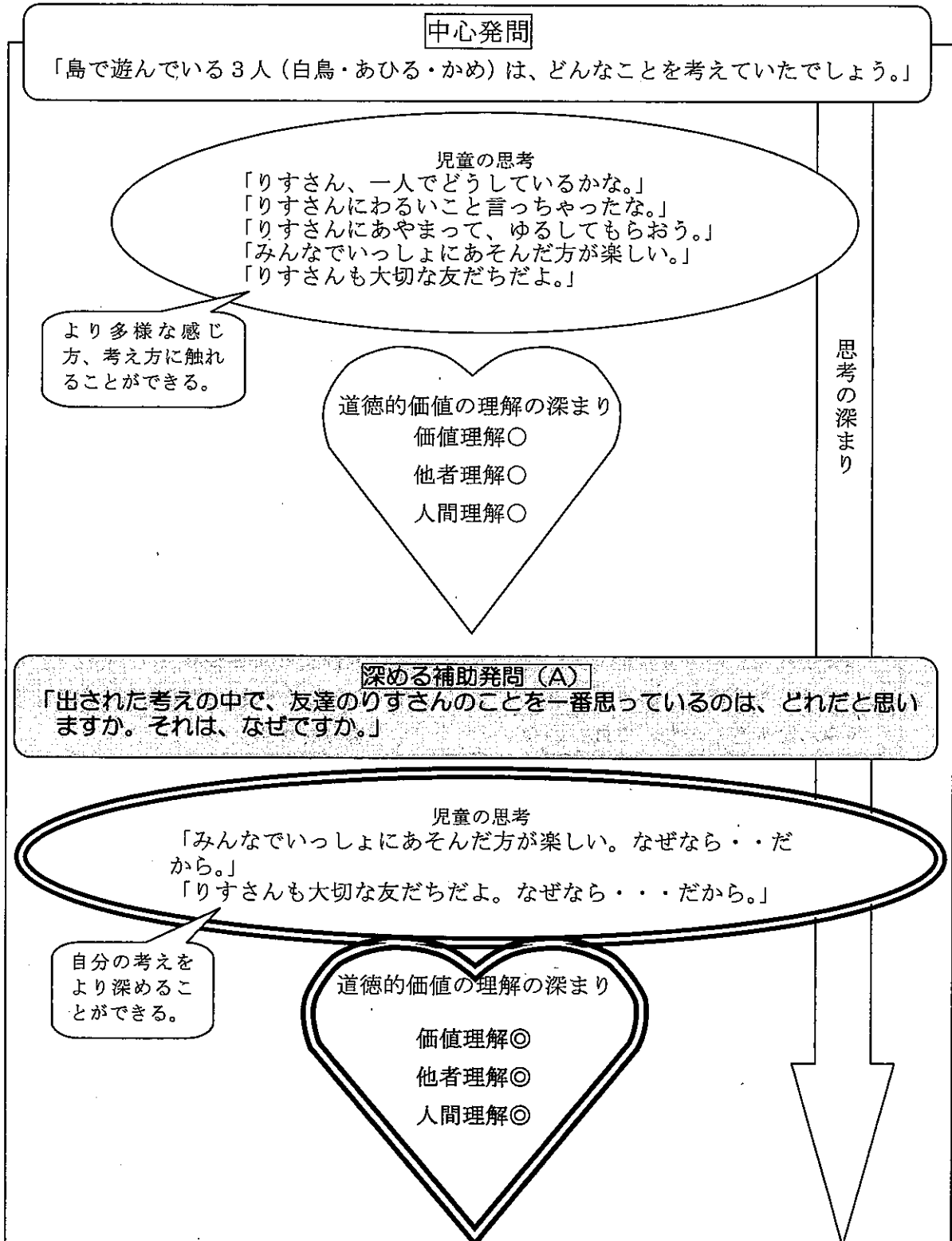
- ・ 同じような考えが出されたときや、異なる考えの中にも共通点があるときに使うことができる。

4 検証授業

(1) 低学年 (第1学年で実施)

- ① 主題名 「みんなで なかよく」 2-(3) 友情・信頼
- ② 資料名 「およげない りすさん」 (1年生のどうとく 文溪堂 小野瀬 稔 作)
- ③ 研究主題に迫るための手だて

中心発問の工夫



④ ねらい

友達の気持ちを考え、誰とでも仲良くしようとする心情を育てる。

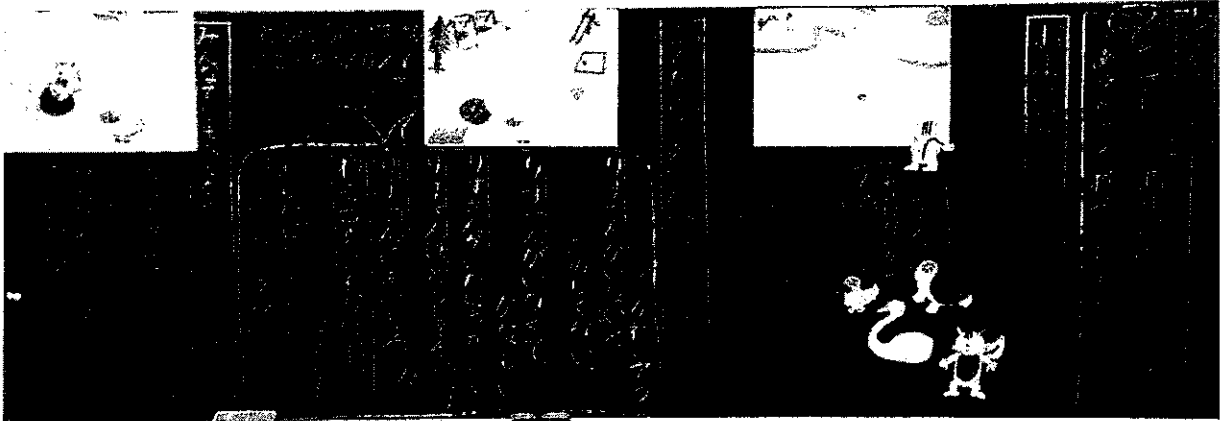
⑤ 本時の学習

	学習活動 (○主な発問 ・予想される児童の反応)	・指導上の留意点 ◆研究主題に関連した指導の工夫
導入	1 「友達」っていいなと思った経験を思い出す。 ○どんなときに友達っていいなと思いますか。 ・いっしょにあそんでいるとき。 ・たすけてくれたとき。	・児童の友達観について提示し、ねらいとする価値への方向付けをする。
展開	2 資料「およげないりすさん」を聞き話し合う。 ○白鳥さんとあひるさんとかめさんは、どんな気持ちで「りすさんはおよげないから、だめ」と言ったのでしょうか。 ・どうしてりすさんはおよげないの。 ・りすさんをつれて行くのはいやだなあ。 <u>◎島で遊んでいる3人(白鳥・あひる・かめ)は、どんなことを考えていたでしょう。</u> ・りすさん、一人でどうしているかな。 ・りすさんにわるいこと言っちゃったな。 ・りすさんにあやまって、ゆるしてもらおう。 ・みんなでいっしょにあそんだ方が楽しい。 ・りすさんも大切などもだちだよ。 ○仲良く島に向かいながら、りすさんはどんなことを考えていたでしょう。 ・さそってくれて、ありがとう。 ・みんなやさしいな。うれしいな。	・資料提示においては、副読本は開かせず、紙芝居形式で全文を暗唱して語り聞かせる。 ・りすのことを考えない自分本位な3人の気持ちを押さえる。 ・りすがいないことで、楽しくないと感じている3人の心情を押さえる。 ◆多様な感じ方や考え方に十分に触れさせた後、「 <u>出された考えの中で、友達のりすさんのことを一番考えているのは、どれですか。それは、なぜですか。</u> 」(深める補助発問)と問いかけ、本時の価値についてより深く考えさせる。 ・やさしく声をかけてもらったりりすの喜びを押さえる。
	3 これまでの友達関係を振り返る。 ○「友達を助けたり友達に助けってもらったりして仲良くできた」のはどんなときですか。 ・ボールをなくしたとき、いっしょにさがして見つかった。とっでもうれしかった。 ・一人のとき、遊ぼうって声をかけてくれた。	・発問を投げかけた後、すぐに挙手させずに、これまでの体験を振り返る時間を設ける。 ・児童の発言を一つ一つ受け止め賞賛し、価値付けていく。
終末	4 教師が見取った児童の友達関係のよさを取り上げ、価値付ける。	・導入での児童の反応を結び付けて話す。

⑥ 評価

- ・島で遊ぶ白鳥とあひるとかめの、りすさんに対する思いを考えることができたか。
- ・友達に助けってもらってうれしかった体験や友達を助けた体験を考えることで、友達と互いに助け合って仲良くしようとする気持ちが高まったか。

⑦ 板書



⑧ 授業記録

ア 中心発問について

学習活動（特に、価値理解に迫っていると思われる発言）	
展 開 前 段	◎T：島で遊んでいる3人は、どんなことを考えていたでしょう。
	C1：やっぱりりすさんがいないと楽しくないな。
	C：同じです。
	C2：ちょっと楽しくないな。
	C3：りすさんは、今どうしているんだろう。
	C4：ちょっとかなしいな、って思います。
	T：どうしてかな。
	C4：りすさんがいないからです。
	C5： <u>りすさんに、あやまろう。</u>
	C6： <u>りすさんに悪口言わなければよかったな。</u>
	C7： <u>明日はぜったい、りすさんも一緒に、みんなで遊ぼう。</u>
	C8：やっぱりりすさんがいた方がよかった。
	C9：りすさんがいないと、楽しくないな。りすさんが、かわいそうだな。
C：同じです。	
C10：やっぱりりすさんがいないと、楽しくないな。	
C11：りすさんを島の方へ連れていくのはちょっとたいへんだけど、りすさんがいないと楽しくないな。	
T：このとき、3人はめんどくさいっていう気持ちなかったのかな。	
C11：3人だけで遊んでも楽しくない。	
C12：3人だけだとつまらないから、りすさんも一緒にいい。	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                     C5、C6、C7は、ねらいとする価値に迫った発言をしていると読み取れる。更に深く、学級全体で価値理解に焦点を合わせるために、次ページの深める補助発問を投げかけた。                 </div>	

ここで、多様な考えを引き出すことにより、「価値理解」だけでなく、「他者理解」「人間理解」も深めている。

T : (深める補助発問) 出された考えの中で、友達のりすさんのことを一番思っているのは、どれですか。それは、なぜですか。

C12 : C6さんのりすさんに悪口言わなければよかったな、です。

T : どうして、そう思うの？

C12 : やっぱり友達に悪口を言ってはいけないからです。

T : C12さんと同じ考えの人いますか。

(C : 10人ほど挙手。)

C13 : りすさんにあやまろうかな。

T : どうしてそう思ったのかな。

C13 : りすさんにあやまらないともう遊んでくれないかもしれないからです。

C14 : 明日りすさんも一緒に、みんなで遊ぼう、です。

T : どうしてそう思ったのかな。

C15 : 今日りすさんと仲良くできなかったから、明日は仲良くしたいからです。

T : りすさんに悪口を言わなければよかった、りすさんにあやまろう、明日りすさんも一緒に遊ぼう・・・どれも友達のりすさんのことを考えているのですね。

ここで、「りすさんに悪口言わなければよかったな。」「明日りすさんも一緒に、みんなで遊ぼう。」「りすさんにあやまろうかな。」という発言に再度焦点化することにより、深める補助発問を投げかける前と比べて、学級全体、個々の価値理解が深まったと考える。

「価値理解」に焦点を合わせることで、ねらいとする道徳的価値に迫っている。

#### イ 展開後段について

学習活動	
展開後段	T : 「友達を助けたり友達に助けってもらったりして仲良くできた」と思ったのはどんなときですか。
	C15 : 入学したばかりのときは、幼稚園が同じ友達しかいなかったんだけど、C2くんがすぐに友達になろうって言ってくれてうれしかったです。
	T : C2くん、今、C15くんと言われてどんな気持ちですか。
	C2 : うれしいです。
	T : そうだよねえ。素敵な友達がいる、よかったね。
	C16 : 幼稚園のときなんですけど、転んだときに、「大丈夫？」って言ってくれてよかったです。
	C : 同じことある。
	C16 : 友達がいたから、転んだときに助けられてうれしいです。
	T : その友達って、このクラスの子かな？
	C16 : C5さんです。

T : C5さんは、そのときのこと覚えていますか。  
 C5 : はい。家も近いし、友達だから、助けてあげようと思いました。  
 T : いい友達ですね。ぜひ、大切にしてください。  
 C17 : 幼稚園の時、C7くんと遊んですごく楽しくて、友達っていいなあと思いました。  
 T : C7くんは、どんな気持ちですか。  
 C7 : うれしかったです。  
 C17 : この前転んだ時に、C1くんが「大丈夫？」って言ってくれてうれしかったです。  
 T : それは、よかったね。友達っていろいろなときに助けてくれるんだね。  
 C18 : はじめて1年生になったとき、隣の席のC5さんが友達になってくれて、この字を直した方がいいよとか、注意してくれてうれしかったです。  
 T : 注意してくれるのがうれしいの？  
 C18 : うん。こうした方がいいって言うのはうれしいです。  
 T : 友達って、そういうすてきなところもあるのですね。

中心発問で多様な感じ方や考え方に触れ、深める補助発問で更に友達と仲良くすることの大切さについての考えを深めたことにより、展開後段でも友情に関する深い意見が出された。特に、C15の発言は、展開前段での発言を受けてのものであると考えられる。

## ⑨ 成果と課題

### ア 成果

- ・中心発問で「白鳥、あひる、かめの3人の葛藤する場面」を取り上げたことにより、後悔の気持ち、謝りたいという気持ち、また仲良くしたいという気持ちなど、十分に多様な意見を引き出すことができた。その結果、価値理解、人間理解、他者理解の全てに触れることができ、道徳的価値の理解が深まった。
- ・「深める補助発問」を行ったことにより、「りすさんに悪口言わなければよかったな。」「明日りすさんも一緒に、みんなで遊ぼう。」「りすさんにあやまろうかな。」という発言に再度焦点化することができた。本時のねらいとする「友情」の価値に迫ることができた。

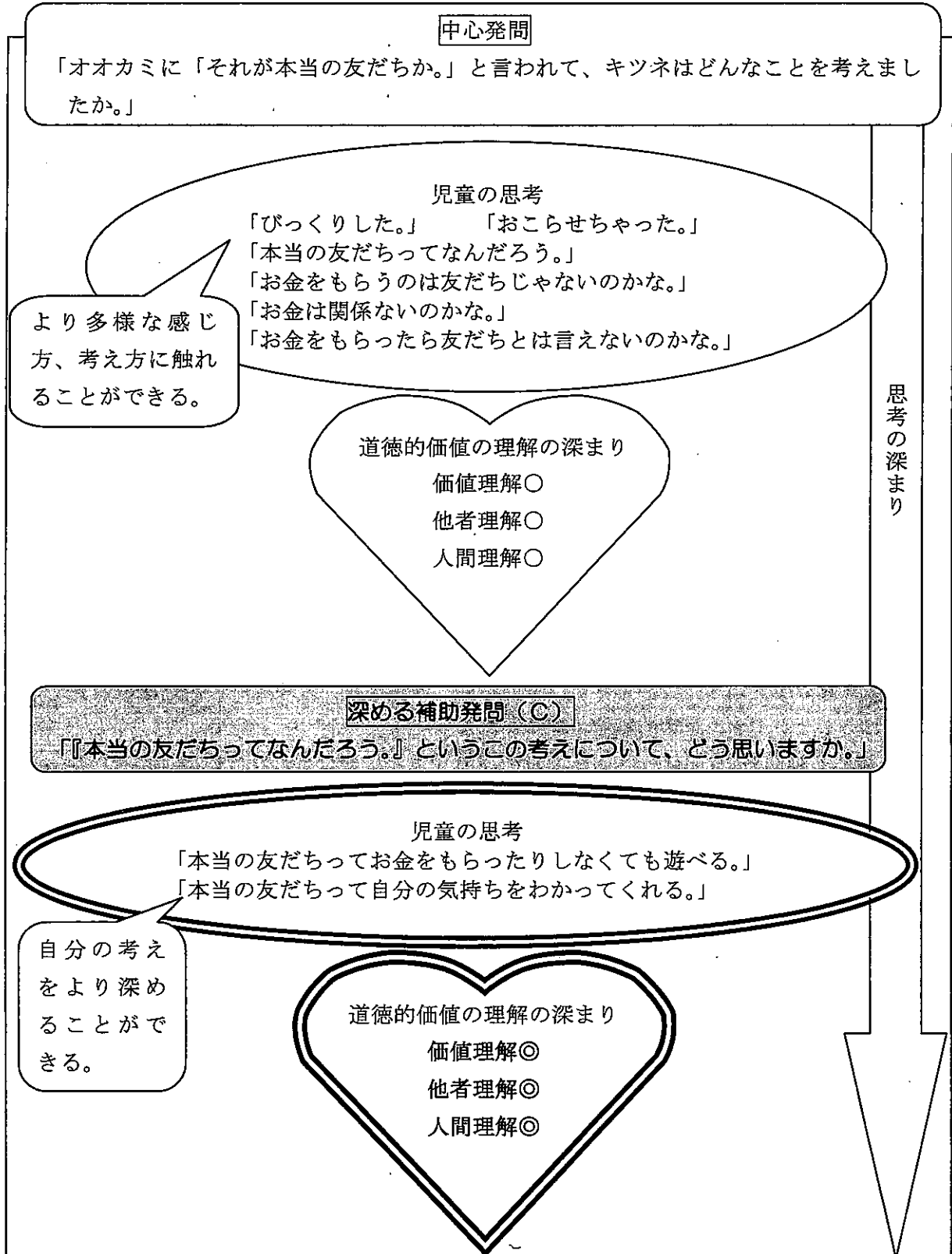
### イ 課題

- ・「深める補助発問」は一つの形式にこだわらず、授業展開によって変えていくことが大切であると感じた。本実践の場合、「C5(C6、C7)さんの考えについて、みなさんはどう思いますか。」「友達のりすさんともっと仲良くするために、大切なのはどの考えでしょう。」といった深める補助発問を投げかけることも考えられる。
- ・本時のみで判断するのではなく、事前及び事後の児童の変容も見取っていく必要がある。

(2) 中学年 (第3学年で実施)

- ① 主題名 「本当の友だち」 2-(3) 友情・信頼
- ② 資料名 「友だちや」(3年生のどうとく 文溪堂 内田麟太郎 作)
- ③ 研究主題に迫るための手だて

中心発問の工夫





④ ねらい

友達と互いに理解し、楽しく過ごそうとする心情を育てる。

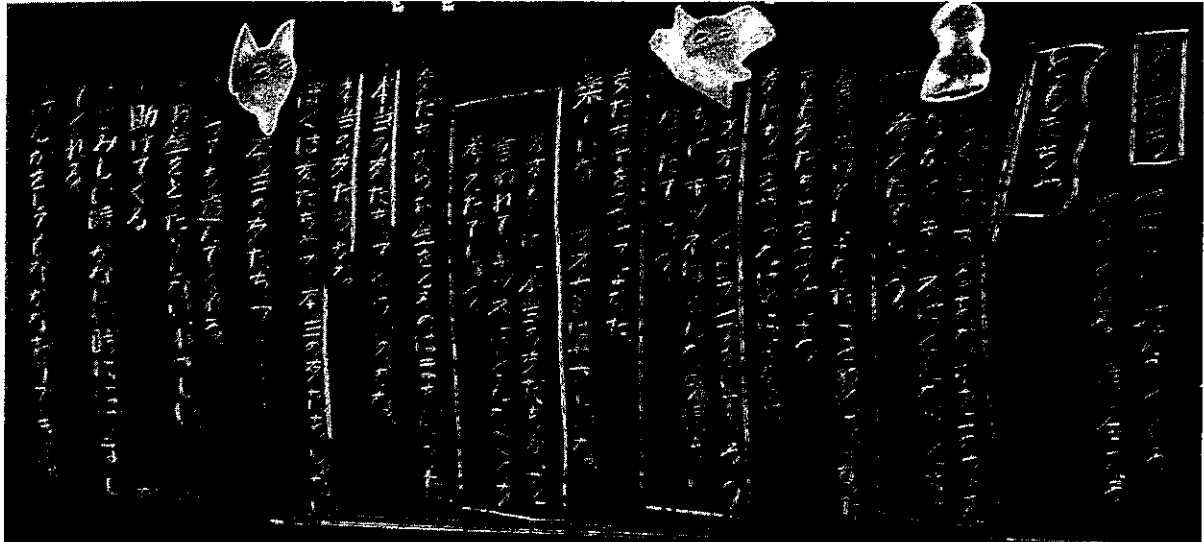
⑤ 本時の学習

	学習活動 (○主な発問 ・予想される児童の反応)	・指導上の留意点 ◆研究主題に関連した指導の工夫
導 入	1 友達について考える。 ○友達と聞いて、どんなことを思い浮かべますか。 ・楽しい。 ・やさしい。 ・いつもいっしょ。 ・けんかする。	・ねらいとする価値への方向付けをする。
展 開	2 資料「友だちや」を聞き、話し合う。 ○しくしくするおなかを押さえながら、キツネは、どんなことを考えたでしょう。 ・イチゴは食べたくない。 ・むりして食べなければよかった。 ・友だちやも楽しじゃないな。 ○オオカミとトランプをしているうちにキツネはどんな気持ちになったでしょう。 ・楽しいな。 ・もっと遊びたい。 ・お金ももらわなくちゃ。 ◎オオカミに、「それが本当の友だちか。」と <u>言われて、キツネはどんなことを考えましたか。</u> ・びっくりした。 ・おこらせちゃった。 ・おおかみさんは、お金くれないんだ。 ・本当の友だちってなんだろう。 ・お金をもらうのは友だちじゃないのかな。 ・お金は関係ないのかな。 ・お金をもらったら友だちとは言えないのかな。	・資料の世界に浸らせるために、児童に資料を配布せず、場面絵を大型TVで提示する。 ・クマと遊んでいる時は楽しくない気持ちや、無理をしていることに気付かせる。 ・クマと遊んでいる時と違って、オオカミと遊んでいる時の楽しくなってきた気持ちを押さえる。 ◆多様な感じ方や考え方に十分触れさせた後、『 <u>本当の友だちってなんだろう。</u> 』という考えについてどう <u>思いますか。</u> 』(深める補助発問)と問いかけ、ねらいとする価値についてより深く考えさせる。 ・キツネの気持ちを考えていることが分かるように、キツネの絵を黒板に貼る。
	3 自分の友達関係を振り返る。 ○友達がいてよかったなと思ったのは、どんな時ですか。その時どんな気持ちになりましたか。 ・遊んでいて楽しいな、と思ったとき。 ・けがを心配してくれた。	・ワークシートを使い、自己の経験を振り返る時間を十分に確保する。 ・意図的指名をする。
終 末	4 教師の説話を聞く。	・友達と理解し合えた経験を話す。

⑥ 評価

- ・キツネの気持ちを考えることで、本当の友達についての考えを深めることができたか。
- ・これまでの自分の友達関係を振り返り、友達と互いに理解し、楽しく過ごそうとする気持ちが高まったか。

⑦ 板書



⑧ 授業記録

ア 中心発問について

学習活動	
展 開 前 段	<p>◎T：オオカミに「それが本当の友だちか！」と言われて、キツネはどんなことを考えたでしょう。</p>
	<p>C1：最初からお金を取るなんてまちがっていたかな。                      C2：本当の友だちってどういう友だちかな。                      C3：オオカミはぼくの本当の友だちかな。                      C4：くまさんにお金返そうかなあ。                      T：どうしてですか。                      C4：友だちからお金を取るのはだめなことだったから。                      C5：ぼくは友だちやなんだ。本当の友だちじゃないよ。                      C6：くまさんにお金を取ったこと、あやまろうかな。                      T：どうしてですか。                      C6：友だちからお金を取るのはいけないから。                      C7：お金を取ったらどろぼうになっちゃうからやめよう。                      T：勝手に取ったらどろぼうですね。でも、ここでは違いますね。</p>
	<p>ここで、多様な考えを引き出すことにより、「価値理解」だけでなく、「他者理解」「人間理解」も深めている。</p>
	<p>「本当の友だちって何だろう。」と考えようとしているが、資料にあるお金のことについての発言が多い。そこで、更に深く、学級全体で、価値理解に焦点を合わせるために、次の深める補助発問を投げかけた。</p>

	<p>T : (深める補助発問) 「本当の友だちってどういう友だちかな。」というこの考えについて、どう思いますか。</p> <p>C 8 : 本当の友だちはいつでも遊んでくれる。</p> <p>C 1 : 本当の友だちって友だちからぜったいにお金を取ったりしないし、やさしくしてくれる。</p> <p>C 3 : 本当の友だちって、わからない問題があった時や、けがをした時に助けてくれる。</p> <p>C 6 : さみしい時や悲しい時にはげましてくれるのが本当の友だち。</p> <p>C 9 : けんかとかをしても必ずなか直りできる。</p> <p>「価値理解」に焦点を合わせることで、ねらいとする道徳的価値に迫っている。</p> <p>深める補助発問を投げかける前と比べて、本当の友達に対する多面的な見方ができてきている。このことから、学級全体、個々の価値理解が深まったと考えられる。</p>
--	---

イ 展開後段について

学習活動	
展開後段	<p>T : 友だちがいてよかったなと思ったのは、どんな時ですか。その時どんな気持ちになりましたか。</p> <p>C 9 : ○○君とけんかをした時に、○○君からあやまってもらえてよかった。</p> <p>C 7 : えっ、そんなことあったっけ。</p> <p>C 10 : 助けてくれたり遊んでくれたりする。さみしい時や悲しい時にはげましてくれる。けんかをしてもなか直りできる。</p> <p>C 11 : プールのテストの時、応えんしてくれて勇気をくれた。わからない勉強の時に声をかけてくれるからがんばれる。</p> <p>C 12 : 一人でいても声をかけてくれる。</p> <p>T : 他に言いたい人いますか。</p> <p>C 6 : 苦しい時、悲しい時、つらい時に近くにいてくれた。</p> <p>深める補助発問で本当の友達について深く考えたことにより、展開後段で、友情に関する多面的な経験について振り返ることができた。</p>

授業前に研究対象としておいた三人の児童の振り返りの様子に着目すると、C13、C14については、発言はなかったが、ワークシートには、友達がいてよかったことについて書いている。このことから、自己の経験を振り返り、友達に対する考えが深まったと見取ることができる。

番号	児童の様子	教師の願い	振り返りのワークシートから
C13 男	明るく活発で、遊びの中心になることが多い。クラス替え後、友達が減ったと思っている。	みんなが自分と遊びたがっているという自信をもって、友達を増やしてほしい。	友達とけんかした時に友達が先に謝ってくれた。
C14 男	おとなしく、一人でいても気にならない。	話しかけられるのを待っているのではなく、自分からも話しかけられるようになってほしい。	困っている時に声を掛けてくれた。
C8 女	元気で活発。自分の思いどおりにならないと、気が済まない。口調が強くなる時もある。	相手の気持ちを考え、譲る気持ちを持ってほしい。	遊び相手がない時に一緒に遊んでくれた。 怪我をした時に保健室に連れて行ってくれた。

## ⑨ 成果と課題

### ア 成果

- ・ 深める補助発問を行ったことにより、本当の友達に対する多面的な見方ができ、児童が本時のねらいとする「友情・信頼」の価値により迫ることができた。
- ・ 深める補助発問で、本当の友達について深く考えたことにより、展開後段で、友情に関する多面的な経験について振り返ることができた。

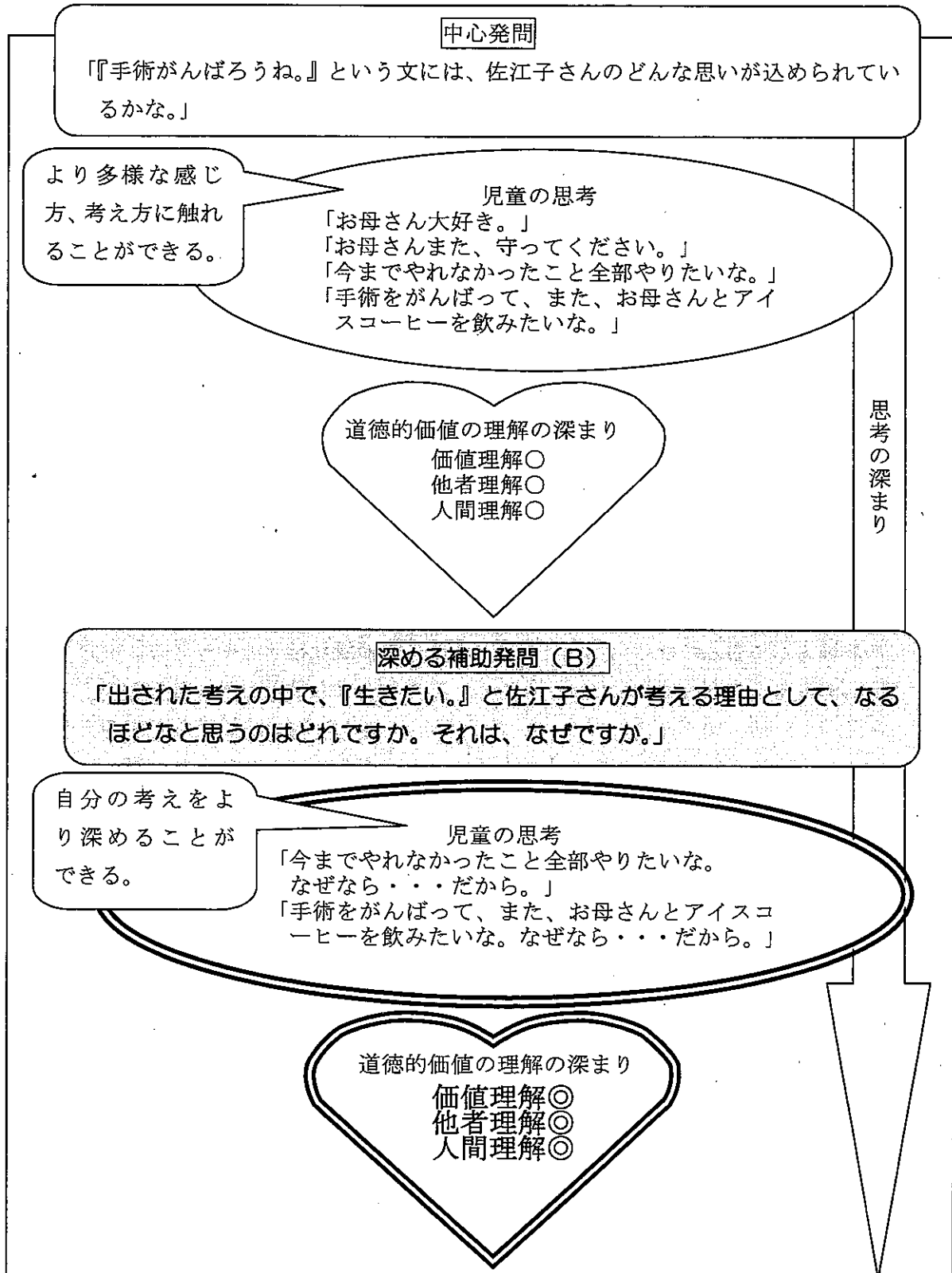
### イ 課題

- ・ 本実践では、上記のような『『本当の友だちってどういう友だちかな。』というこの考えについて、どう思いますか。』という深める補助発問を投げかけたが、授業展開によって変えることも考えられる。『『ぼくは友だちやなんだ。本当の友だちじゃないよ。』というこの考えについてどう思いますか。』や『『オオカミはぼくの本当の友だちかな。』というこの考えについてどう思いますか。』などといった深める補助発問を投げかけることも考えられる。
- ・ 深める補助発問を、資料の中の登場人物の気持ちを考えさせることにとどめず、資料から離れて、自分の経験を交えた展開後段の振り返りに近いようなものにまで広げてよいものかを考える必要がある。

(3) 高学年 (第6学年で実施)

- ① 主題名 「生きることのすばらしさ」 3- (1) 生命尊重
- ② 資料名 「お母さんへの手紙」 (6年生・明日をめざして 東京書籍 柳橋佐江子 文)
- ③ 研究主題に迫るための手だて

中心発問の工夫



④ ねらい

「命」のかけがえのなさについて深く考え、よりよく生きようとする心情を育てる。

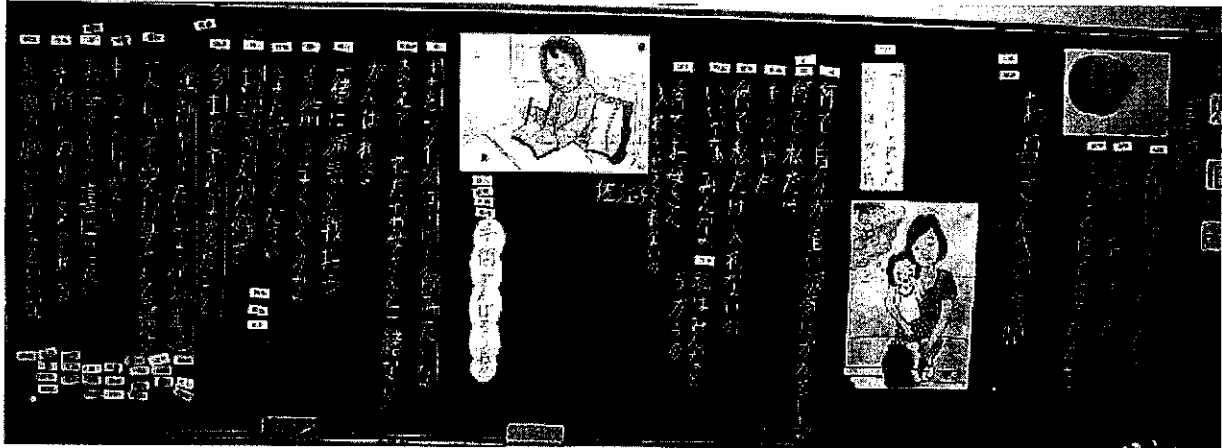
⑤ 本時の学習

	学習活動 (○主な発問 ・ 予想される児童の反応)	・ 指導上の留意点 ◆ 研究主題に関連した指導の工夫
導入	1 「今の自分に対するお家の人の気持ち」をインタビューした感想について、話し合う。 ○お家の人の気持ちを聞いてどう感じたかな。 ・大切に思われていることがわかった。 ・もっと頑張って生きていこうと思った。	・ 資料への方向付けをする。 ・ 事前に行った実態調査の結果を踏まえて話し合う。
展開	2 資料「お母さんへの手紙」を聞いて、佐江子さんの気持ちについて話し合う。 ○プールに入れないと泣いて悔しがっていた時、佐江子さんは、どんな気持ちだったかな。 ・だれも私の気持ちなんて分かってくれない。 ・こんなに辛いなら、死んでしまいたい。 ・お母さん、なぐさめてくれて、ありがとう。 ◎「手術がんばろうね。」という文には、佐江子さんのどんな思いが込められているかな。 ・手術を成功させて、絶対に生きていきたい。 ・お母さんとまたアイスコーヒーを飲みたい。 ・お母さんに喜んでほしい。 ・お母さんを心配させたくない。 ・家族と一緒に過ごしたい。 ・これからやりたいことがたくさんある。 ・友達や家族と遊びたい。 ・このまま病院のベッドで寝たままは嫌だ。	・ 主人公の佐江子さんの気持ちになって聞くように明示し、範読する。 ・ BGM を流し、資料に浸らせる。 ・ 同年代の友達が当たり前のようになっていることと、同じことができない佐江子さんの悲しい気持ちや病気に対する不安な気持ちに共感させることで、中心発問へとつなげる。 ・ 母の励ましもあり、生きることに強く希望をもち続けている佐江子さんの気持ちに共感させ、多様な考えを引き出す。 ◆ 多様な感じ方や考え方に十分に触れさせた後、「出された考えの中で、『生きたい。』と佐江子さんが考える理由として、なるほどなと思うのはどれですか。それは、なぜですか。」(深める補助発問)と問いかけ、本時の価値についてより深く考えさせる。
	3 ワークシートを使って、自分が「今、生きていること」について考える。 ○今、自分が「生きていること」について、どのように感じていますか。授業を受ける前の自分に手紙を書きましょう。 ・命ってすごく大切なものなんだよ。「死ね」とか気軽に言ったらだめだよ。	・ ワークシート(「ニコニコカード」)に書かせる。 ・ 授業前の自分自身を振り返り、自分の考えがどのように深まったか、じっくり考えさせる。 ・ 意図的指名を行う。
終末	4 教師の説話を聞く。	・ 教師の過去の経験で感じたことを伝える。

⑥ 評価

- ・主人公の佐江子さんの立場になり、「手術がんばろうね。」の一文に込められた佐江子さんの気持ちを考え、命のかけがえのなさについて深く考えることができたか。
- ・授業前の自分自身に手紙を書くことにより、これまでの自分自身の考えを振り返り、よりよく生きていこうとする気持ちをもつことができたか。

⑦ 板書



⑧ 授業記録

ア 中心発問について

学習活動（特に、価値理解に迫っていると思われる発言）	
展 開 前 段	<p>◎T：佐江子さんは、どんな気持ちで、最後に「手術がんばろうね」と書いたと思いますか？</p> <p>C1：手術をがんばって、また、お母さんとアイスコーヒーを飲みたいな。</p> <p>C2：支えてくれたお母さんと一緒なら、きっと何とかなる。がんばれる。</p> <p>C3：一緒に病気と闘おう。</p> <p>C4：「ほんとに手術成功するかな…」、みたいなマイナスなことも考えていると思う。</p> <p>C5：お母さんまた、守ってください。</p> <p>C6：お母さん大好き。</p> <p>T：どうして、そう思ったの？</p> <p>C6：今まで支えてくれたから。</p> <p>C7：この手術終わったら、今までやれなかったこと全部やりたいな。</p> <p>T：やれなかったことって、どんなことかな？</p> <p>C7：水泳とか走ることとか。</p> <p>C8：一人じゃ不安だけど、お母さんと一緒だったら乗りきれる。</p> <p>C9：もう一人じゃない。お母さんがいる。</p> <p>C10：お母さんを喜ばせたい。</p>

ここで、多様な考えを引き出すことにより、「価値理解」だけでなく、「他者理解」「人間理解」も深めている。

C11：これで最後のお願いになるといいな。

T：どんなお願いをしているの。

C11：一人じゃ乗り切れないから、「お母さん、手伝って。」みたいなお願い。

C1、C7、C10は、ねらいとする価値に迫った発言をしていると読み取れる。更に深く、学級全体で価値理解に焦点を合わせるために、下記の深める補助発問を投げかけた。

T：(深める補助発問) 出された考えの中で、「生きたい。」と佐江子さんが考える理由として、なるほどなど思うのはどれですか。それは、なぜですか。

C12：お母さんを喜ばせたい。

T：どうして、そう思うの？

C12：この言葉に全てが詰まっていると思うから。

C13：またアイスコーヒーを飲みたい。確かに喜ばせたいという気持ちもあると思うけど、アイスコーヒーという言葉は奥が深いと思うから。

C14：これまでやれなかったことを全部やりたい。

T：もう少し、詳しく教えて。

C14：この中には「お母さんを喜ばせる」も含まれていると思う。

T：自分がやりたいだけでなく、お母さんへの思いにつながるんだね。

C4：全部含めて、「お母さん大好き」って思い。

「価値理解」に焦点を合わせることで、ねらいとする道徳的価値に迫っている。

ここで、「だから、生きたい。」という言葉につながる価値理解に迫った発言を選ばれたことから、深める補助発問を投げかける前と比べて、学級全体、個々の価値理解が深まったと考えられる。

#### イ 展開後段について

授業前に研究対象としておいた二人の児童の展開後段でのワークシートに着目した。

##### (ア) C4の児童(授業前)

性別	日頃の児童の様子	「生命尊重」に関する教師の願い
男	運動が得意で、男子のリーダー的存在である。気分が波があり、友達に強い口調で責めてしまうことがある。	様々な人との支え合いの中で生きていることが分かり、共に生きることの素晴らしさを実感させたい。

リーダー的存在で、常に周りに友達がいるため、その友達のありがたみを実感する機会に乏しく、特に最近、心ない口調で友達を責めてしまうことがあった。本時を通し、人は、他の人の支えの中で生きていることを感じさせ、これまでの自分の「生き方」について振り返らせたい。



〈展開後段でのワークシートへの記述内容〉

前まではさあ、「死ぬ」とか人に言っちゃったことがあったよね。でも、今生きたくても、死んでしまう人もいるんだよね。だから、言わないようにしよう。前までは、「生きている」ということを当たり前感じていたよね。でも生きているということは、お父さん、お母さんのおかげで、おじいちゃん、おばあちゃん、友達、先生のおかげなんだよ。人は一人では生きていけないから、周りの人に感謝して生きていく必要があると思う。自分も逆に助けている立場だと思う。だからこそ、人に「死ぬ」とか言っちゃダメ。また、自分でも「死にたい」なんて思っちゃダメ。心の中でしっかり考えていこう。

(イ) C9の児童〈授業前〉

性別	日頃の児童の様子	「生命尊重」に関する教師の願い
女	素直で、真面目である。努力も怠らないが、自己肯定感が低い。	生命に対する畏敬の念を育てるだけでなく、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てたい。

実態調査で、「『生きていてよかったな』と感じたことはありますか。」の問いに、学級で唯一、「特にない。」と解答した。日頃から努力は怠らない真面目な児童であるが「生きていること」を当たり前と感じているのかもしれない。本時を通し、生きることの素晴らしさを実感させた。

〈展開後段でのワークシートへの記述内容〉

今回の授業を学習して、今、自分が生きていること、生まれてきたことが素晴らしいことだと思います。前までは、「生きていてよかった。」と感じたことはなかったけど、今は「生きていてよかった。」と感じます。だって、早くに命を落としてしまった人がいるから12才まで健康に生きていてよかったと思うからです。また、健康に生まれてきてよかったとも思います。前の私に今言えるなら、「死んでしまった人の分まで生きなさい。」と言いたいです。

⑨ 成果と課題

ア 成果

- ・ 中心発問で「佐江子さんの強い思いが込められている場面」を取り上げたことにより、十分に多様な意見を引き出すことができた。その結果、価値理解、他者理解、人間理解の全てに触れることができ、道徳的価値の理解が深まった。
- ・ 深める補助発問を行ったことにより、「だから、生きたい。」と強く思う佐江子さんの思いに焦点化することができ、本時のねらいとする「生命尊重」の価値により迫ることができた。
- ・ 深める補助発問で、「生きることの素晴らしさ」について深く考えたことにより、展開後段で、今までの自分自身について深く振り返ることができた。

イ 課題

- ・ 本実践では、前述のような深める補助発問を投げかけたが、他にも「C4さんの考えについて、どう思いますか。」「出された意見に共通しているのは、佐江子さんのどんな気持ちだと思いますか。」なども考えられる。授業のねらいにより、選択していくことが必要である。
- ・ 展開後段の記述内容の深まりが、「深める補助発問」を行ったことによる効果だったのか、それとも別の要因があるのかは、見取りの手法も含め、より検討していく必要がある。

- ・本時のみで判断するのではなく、事前事後の児童の変容も見取っていく必要がある。

## VI 研究の成果

### 1 中心発問において

- ・発問を吟味することで、児童の発言が増え、多様な感じ方や考え方を引き出すことができた。
- ・「深める補助発問」をすることにより、児童が友達の考えと自分の考えを比べたり、まとめたりすることができるようになり、より道徳的価値の理解を深めることにつながることができた。
- ・児童から出された発言を再度焦点化したり比較したりするなど、目的に応じた話合いをすることで、児童は自分の考えを更に強くもつことができるようになった。

### 2 道徳の時間を通して

- ・児童が友達の考えに今まで以上に興味をもって聞くようになり、授業への意欲が高まった。また、表面的な考えや理想的な考えだけにとどまらず、他者理解や人間理解に基づいた発言をする児童も増えた。
- ・深める補助発問で道徳的価値の理解を深めたことにより、振り返りの場面でも、自分自身について振り返りやすくなり、ワークシートに、以前よりも価値に迫る内容を書く児童が増えた。

## VII 今後の課題

- ・資料や授業展開によって「深める補助発問」が異なるため、今後も様々な「深める補助発問」を検討していく。
- ・授業時間内で、「深める補助発問」を設定することによって、授業全体の時間配分を考えていく必要がある。
- ・児童の「自分の考えを深める」ことについての見取りを、事前、事後の様子を含め、引き続きしていく必要がある。
- ・深める補助発問に対して児童が発言したことの中には、登場人物の気持ちを述べることにとどまらず、自らの経験を振り返って考えているものもあった。このことから、深める補助発問を指導過程に組み込むことで、自分の経験を振り返らせることもできる可能性があると考えられる。主に振り返りの時間として位置付けられる展開後段の在り方について、研究の余地があると感じられる。

## 平成23年度 教育研究員名簿

### 小学校 ・ 道徳

地区	学校名	職名	氏名
新宿区	落合第一小学校	主任教諭	戸高 マキ
豊島区	豊成小学校	主任教諭	木村 隆史
練馬区	下石神井小学校	主任教諭	○鈴木 芽吹
足立区	千寿第五小学校	主任教諭	清水 里恵
八王子市	川口小学校	教諭	宮原 靖卓
調布市	杉森小学校	教諭	村松 治実
国分寺市	第三小学校	教諭	田部 久美子
国立市	国立第二小学校	教諭	海馬沢 一人
武蔵村山市	第三小学校	主幹教諭	保科 瓦隆

○ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課  
指導主事 川島 直人

平成23年度  
教育研究員研究報告書

小学校 道徳

東京都教育委員会印刷物登録

平成23年度第181号

平成24年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 有限会社 シーダー企画